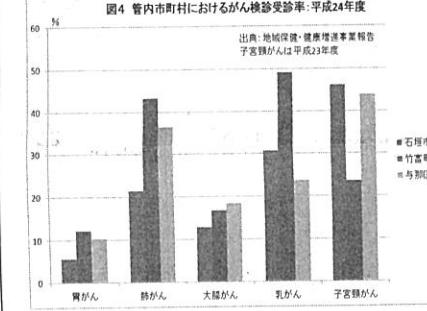
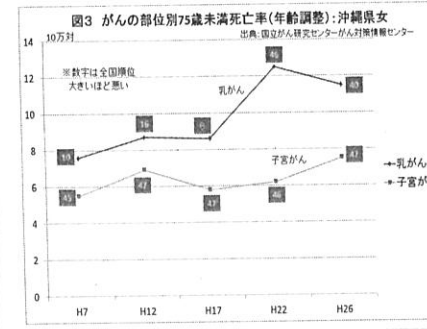
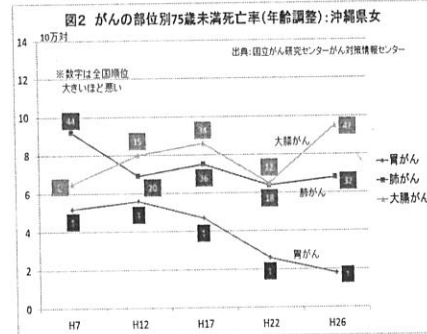
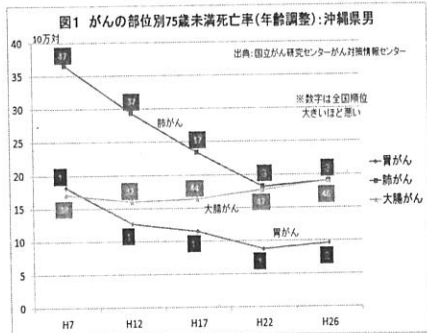


「Let's 健康おきなわ21」

# がん検診を受けよう

八重山福祉保健所所長  
崎山 八郎



人の寿命は限られています。人はいずれ何らかの病気などで亡くなります。

沖縄県内で1年間に亡くなる人は、平成24年の統計では1万624人で、そのうちがんによるものが2913人となっています。全体の27%が、がんで亡くなっていることとなります。

がんの種類別で、最も多いのが肺がんで596人、次いで大腸がん463人、胃がん232人となっています。

がん死亡の年次的な推移を75歳未満におけるがんの部位別死亡状況(年齢調整)によりみてみると(図1、図2、図3)、男性では肺がん、胃がんは減少傾向で、大腸がんが増加傾向にあります。女性では、肺がん、胃がんが減少傾向、大腸がん、乳がん、子宮がんは増加傾向にあります。

沖縄県と全国との比較を死亡率の全国順位でみると、男性では肺がん(3位)、胃がん(2位)は良く、大腸がん(46位)が悪くなっています。女性では、胃がん(1位)が良く、大腸がん(47位)、乳がん(40位)、子宮がん(47位)が悪い状況にあります。

以前、沖縄県は男女ともに肺がん死亡率が高い状況がありましたが、近年、喫煙率の減少などもあり改善がみられます。胃がん死亡率はもともと低い傾向にありましたが、引き続き対策の手を緩めることなく取り組みを進めていくことが重要です。

現在、市町村や職域ではこれらのがんに対する検診が実施されています。

管内市町村における受診率をみてみると(図4)、全体として受診率は低く、特に、胃がん、大腸がんは低く、せっかく検診を受けられる機会があるにもかかわらず、検診を受けない人が多いのは残念なことです。

また、せっかく検診を受けて精密検査が必要と判定されているにもかかわらず、検査を受けない人たちもいます。そのような結果が出た場合は、「忙しいから」とか、「がんと言われるのが怖いから」とか言わずに必ず精密検査を受けることが大切です。

これまで沖縄県は、国内や国外においても長寿県として広く知れ渡っていたところであり、平成7年には世界長寿地域宣言を行いました。その後、平均寿命の順位は低下し、今や危機的な状況になっています。そのため、沖縄県は、2040年までに健康長寿世界一復活を目指して県民挙げて取り組みを展開しているところです。

平均寿命の順位が低下した原因の一つとして、がん死亡の影響が大きいと考えられますので、がんによる死亡をいかに減らしていくかが大きな課題となっているところです。

現在、がんを予防する確実な方法はありません。喫煙、飲酒、塩分摂取、ウイルスなどががんの原因として分かっているものも一部ありますが、それ以外によく分からない原因もあるためそれだけでは予防できないのが現状です。そのため、原因

と考えられる生活習慣の改善などに加え、がんを早期に発見し治療することが重要になってきます。もし、がんにかかったとしても早期に発見し、早期に治療することにより長生きすることは可能なのです。しっかり検診を受け、いつまでも自分の好きなこと、楽しいことができるような生涯を送りたいものです。